

簡易型金属検査装置を開発

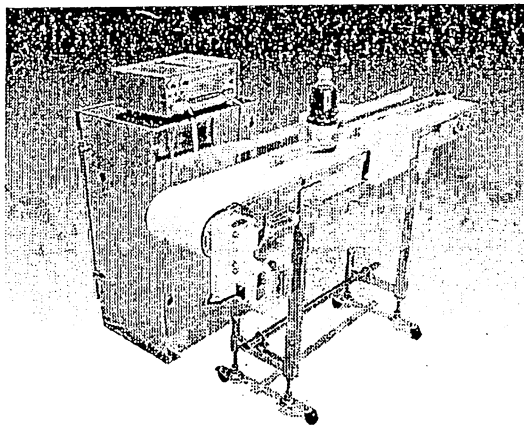
アドバンスフードテック

磁気センサー採用

3/3 中程

豊橋技科大
と共同で
低価格化を実現

食品・医薬品業界向け機械メーカーのアドバンスフードテック(本社豊橋市西幸町浜池三三三ノ九、鈴木周一社長、電話0532・29・9033)は、豊橋技術科学大学と共同で簡易型磁性金属検査装置を開発し、販売を開始した。超伝導体センサー(SQUID、特許出願中)の代わりに高感度磁気センサーを採用したことで、低価格化を実現している。食品業界を対象に売り込みを図る。



非接触で金属検査が可能な「メタルディテクター」

同社は、食品・医薬品業界向けの各種先端技術開発を手がける技術系ベンチャー企業で、直径〇・五ミ以下の金属異物を検出する、世界最高感度の超伝導磁性金属検出システムも手掛けている。今回、開発した簡易型磁性金属検査装置「メタルディテクター」は検出精度は一ミ以上となるものの、超伝導体センサー(SQUID、特許出願中)に代わり、低価格な高感度磁気センサーを採用し、本体価格を抑えて検査対象物の大きさ、包装状態や冷凍、水分、塩

(豊橋・三ッ口洋一)

分、温度の影響を最小限以下となる百万円以下に抑えていることが特になる見通し。みぞ、し容易であり、今後、食品徴。価格は、SQUID ようゆ、漬物などの検査業界を中心に採用を促方式機と比較し、四分の用途を想定しており、既す。

電車ブレーキ時の電力貯蔵

走行時に再利用

JR東海、世界初の成功

東芝と共同開発

JR東海は二十日、電車ブレーキをかけた時に発電した電力を貯蔵し、走行時に使う「電力貯蔵システム」の開発に成功したと発表した。東芝との共同開発で、実際の鉄道に搭載して成功したのは、世界でも初めてという。

JR東海の松本正之社長は「今後、電力貯蔵装置の大容量化と製造コスト削減を進め、在来線での早期実用化を目指したい」としている。

風力発電所

中電本館建設を検討

国内3カ所 風況調査で判断

中部電力は22日、知多半島など国内3カ所で本格的な風力発電所の建設を検討していることを明らかにした。地球温暖化防止のために温室効果ガス削減を義務付ける京都議定書の発効などで、風力や太陽光など化

来年度以降に着手
同社は昨年夏、知多半島、三箇島(愛知県)など

や事業性を検討したうえで、06年度以降に建設に着手する。同社は、浜岡原子力発電所など3カ所で自社施設に電力を供給する小規模な風力発電機を運用しているが、本格的な風力発電所を建設することになれば、同社としては初めてとなる。

新エネルギー 風力、太陽光、バイオマ(こぼ)ス(木材や生ゴミなどの生物体の利用)など、資源量に限りがある化石燃料に代替して、普及することが期待されているエネルギー。化石燃料と比べて環境に対する負荷が小さく、再生可能なエネルギーが多い。地球温暖化に影響する二酸化炭素(CO₂)の発生を抑制する手段としても関心が高まっている。

燃料と比べて環境に対する負荷が小さく、再生可能なエネルギーが多い。地球温暖化に影響する二酸化炭素(CO₂)の発生を抑制する手段としても関心が高まっている。

65歳までの雇用OSGが導入切削し真メーカーのOSG(愛知県豊川市、従業員千七百二十人)は二十日、六十五歳まで継続雇用する制度を三月一日付で導入す